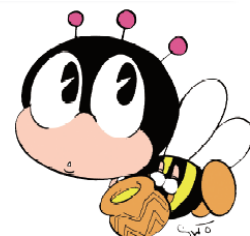


令和4年度
調査研究成果報告書



広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」 支援事業の今後の展開に向けて

—市町職員研修とモデル市町支援の実施を通して—

令和5年3月
広島県立生涯学習センター

目 次

調査研究成果報告書 1 ~ 8

参考資料 9 ~ 16

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業の成果について
—モデル市町支援の実施を通して—

【調査研究者】

広島県立生涯学習センター 所長 田崎 志緒
振興課長 宮 香緒利
社会教育主事 武原 智明
社会教育主事 杉原 直樹
社会教育主事 中尾 公寛
主任 池田 準
主任 荒木 絵里香

【調査研究・助言者】

広島県立生涯学習センター 生涯学習推進マネージャー 山川 肖美
(広島修道大学 教授)

1 事業の概要

平成30年中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、社会教育は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つことや、学びと活動が好循環する中で、社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりの重要性が示されている。

これらのことから、当センターの運営方針にもある、活力ある人づくりと人を活かす社会づくりを目指すためには、複数年を見通した市町への継続的な支援が必要であると考え、「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』支援事業」として、令和元年度から試行的に始め、令和4年度で4年目を迎えている。

本事業の趣旨は次のとおりである。

- 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等（公民館及び公民館類似施設（コミュニティセンター）等の社会教育関係施設）が、行政（首長部局）や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。
- 住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりの活動を促進する事業モデルを実証開発し、それぞれの公民館等での活動をコーディネートできる人材（公民館職員等）の育成を図る。
- 上記事業の構築に当たっては、県及び市町の社会教育主事はその役割を発揮し、専門性（有用性）を生かす仕組みを取り入れる。

なお、本事業については、効果的な実施を目指し、市町職員研修とモデル市町支援の2本の取組を相互に関連させながら進めてきている。

2 研究の目的

(1) 令和3年度の研究成果

令和3年度の研究では、主に2本の取組の一つである市町職員研修について成果や課題を整理することができた。研修は、本事業のコンセプトについての講義、事業の概要説明、企画シートの作成等を内容とし構成してきている。各市町の受講者にとっては、プロジェクトの具体的な展開例やその成果や課題に関わる情報は、事業を展開する上で大変参考となる。令和3年度は、モデル市町として2年間の取組を終えた東広島市と世羅町の担当者による事例発表の場を設け、研修受講者がより具体的に事業をイメージしやすいように改善した。

その結果、研修受講者には、学びから始まる地域づくりの意義や必要性について理解を深めるとともに、地域の課題や資源の分析方法を演習から学び、日々の業務に生かそうとする等の変容が見られ、研修に一定の成果があったと捉えている。（表1参照）また、事例発表を加えたことにより、市町の担当

者同士の横のつながりが見られたことも成果の一つとして挙げられる。研修の成果については、詳しくは一年次の研究報告書で述べており、参照いただきたい。

表1 令和3年度振り返りアンケートの結果

	とても	まあまあ	あまり	ほとんど
今回の研修で学んだことは、明日からの仕事に役立つものになりましたか。	57.9	42.1	0	0

(2) 令和4年度の研究の目的

令和4年度は2本の取組の1つであるモデル市町支援における本事業の成果等を整理する。モデル市町の取組については、これまでの研修においてそのプロセスや成果等の報告の機会を設けてきたが、改めて、これまでの取組を総合的に振り返り検証することで、地域にどのような効果をもたらしたか等について明らかにする。

併せて、本事業を推進していくための、県立生涯学習センターからの効果的な伴走的支援の方法について整理する。

3 研究の方法（事業の検証の視点）

研究の方法については、6つのモデル市町の内、3年次の支援を終えている3市町（世羅町、東広島市、北広島町）の事業報告書及び学習支援者へのインタビュー調査から、事業の成果等を抽出し整理する。事業検証の視点は次のとおりである。

表2 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
モデル市町におけるプロジェクトの推進は、地域にどのような効果をもたらしたか。	ア 事業報告書 イ 学習支援者へのインタビュー調査
県として、どのような伴走的支援をすることが有効か。	ウ 担当者の振り返り

なお、「イ 学習支援者へのインタビュー」については、次のとおり実施した。

○期間：令和4年9月～10月

○方法：グループインタビュー

○対象：3市町（世羅町、東広島市、北広島町）における事業趣旨を理解してプロジェクトの企画や実施に参画をした学習支援者 7名

4 調査結果と考察

(1) モデル市町の取組概要

モデル市町の取組について、各市町から提出された事業計画書、プロジェクトの企画シート、事業報告書を参考に次のとおりまとめた（事業計画書等の様式については参考資料参照）。

【世羅町（R1～R3）】

地域の現状	解決すべき地域の課題	解決の取組概要	具体的な実施内容
<ul style="list-style-type: none"> 小国地区人口：1,134名（令和元年11月現在） 高齢化率46.3%、少子高齢化が著しく進んでいる。 人口減少と高齢化により、振興区によっては組織や活動の維持が困難。 「小国地区地域づくりビジョン」の共有ができておらず、地域づくりに向けた方向性 	<p>「小国地区地域づくりビジョン」が全住民で共有できていないため、地域の現状を踏まえ、実現可能なビジョンを多くの住民が参画して、策定していく必要がある。また、その中で自治振興区の在り方や組織の見直しも含めて検討していく。さらに、ビジョンを踏まえて地域行事も見直し、若い世代の住民の地域づくりへの関心・感心も高めていきたい。</p>	<p>はじめに、若い世代も含めた多世代の住民が、小国地区の未来を語りながら意見交換を行い、連帯感を醸成していく。次にこれからの地域づくりやビジョン策定の必要性について講師等を招聘して学ぶ。そして、地域づくりのために必要かつ、実現可能な「小国地区地域づくりビジョン」を策定し、全住民で共有する。その後、策定した「小国地区地域づくりビジョン」を踏まえた事業のリデザイン案・企画案を検討していく。また、ビジョン策定を契機</p>	<p>【1年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小国地区の現状分析 「小国地区地域づくりビジョン」策定に向けた意見交換会 これからの地域づくりやビジョンの必要性を学ぶ講演会や研修会 講師：人間科学研究所 所長 志賀 誠二 <p>【2年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新ビジョン策定に向けた検討会議 「小国地区地域づくりビジョン」の策定と周知、全住民による共有 ビジョンに基づいた地域づくりのために小国自治振興組織の見直し案の検討 ビジョンに基づいた事業の見直し、検討

も定まってい ない。また、それら を踏まえた活動 や事業も皆無で ある。		に、小国地区自治振興区組 織の見直しについても検討 していく。	【3年目】 ・ビジョンに基づいた事業の試行・実施 ・地区三役会・理事会・代議員回答による 新ビジョン・事業・自治振興区見直しに 対する意見聴取・評価
--	--	---------------------------------------	--

【東広島市 (R1～R3)】

地域の現状	解決すべき地域の課題	解決の取組概要	具体的な実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・福富町人口： 2,322名 (令和2年4月末現在) ・高齢化率41.8%と 高く、移住者はい るものの過疎化、 高齢化が進行。 ・町内に3地域あり、 それぞれの地域に 住民自治協議会が ある。高齢者の多 くは、長寿社会へ 備えての個人や地 域が必要とされる 情報収集や地域 づくりに関心が薄 く、一部の高齢者 が地域を支えてい る。 	<p>地域を維持し、次世代に 受け継いでいくためには、 今地域を支えている高齢者 が、人生100年時代を元気で 楽しく生きていくための 「生きがいの創出」や「健 康づくり(健康寿命)」、 高齢からくる引きこもりの 防止、また、個人としての 自立と地域の人材としての 地域参画等の仕組みづくり が課題である。こうした課 題に対応していくため、地 域住民の最も身近な学びと 交流の場である「地域セン ター」を拠点とし、人生100 年時代を見据えた、高齢者 を対象とした学習機会の充 実をより一層図っていく必 要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が元気で賢く人 生100年時代を生き抜く ための基礎づくりとし て、体系的に、「老いの基 礎・基本」を学ぶ機会を 提供する。 ○同年代の仲間を作り、地 域で生きるための絆を 作る。 ○高齢者の主体的な学び の支援や地域の人材と して地域参画・社会貢献 していこうとする意欲 を醸成していくことで、 「学び(地域活動を含 む)の循環づくり」を構 築する。 	<p>【取組のポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「教室」は住民に最も身近な学習・交 流の活動拠点である「地域センター」 (公民館)を活用 ②「先生」は現場の実践家・専門家、企 業・大学・行政等、地域の多様な主体・ 人材を積極的登用 ③「授業」は「講義」とともに現場での 「体験」(実技、演習、対話、フィール ドワーク)を豊富に ④「カリキュラム」は住民(学習者)の参 画による協働型学習プログラムとして 開発 ⑤地域の学びのネットワークを支援する コーディネーター人材(生涯学習推進 員)を育成・配置 <p>【1、2年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者を対象とした学びの場の充実 (地域づくり参画への機運醸成) ○学びから始まる地域づくり講演会・懇 談会 テーマ「人生100年時代をどう生き抜く か」 講師：新居浜生涯学習大学 学長兼所長 関 福生

【北広島町 (R2～R4)】

地域の現状	解決すべき地域の課題	解決の取組概要	具体的な実施内容
<ul style="list-style-type: none"> ・北広島町人口： 18,073名 (令和3年3月末現在) ・高齢化率38.7% ・人口減少と少子高齢 化が急速に進んで いる。 ・保育所(0～5歳児) の入所率78.6%(令和 3年3月末)で上昇。 ・「子育てに不安や負担 を感じない」と思う人 の割合が49.8%(平成 25年)(第2次北広島 町長期総合計画) 	<ol style="list-style-type: none"> ①核家族化、共働き世代の 増加により、親、子ども 共に、地域や多世代との 交流の機会が少なく なっている ②親は仕事、子どもは習い 事等で日々忙しくして いるため、親子で一緒に 過ごす時間が減少して いる。 ③子育てに不安や負担を 感じている親が多い。 	<p>令和3年4月1日にオ ープンした「北広島町まち づくりセンター」におい て、課題を解決するための 事業実施や施設運営を行 う。その取組のひとつと して、令和4年度は「絵本 フェスタ」を実施する。</p> <p>「絵本フェスタ」では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で一緒に過ごす時 間を設けること ・多世代で交流すること ・子育ての不安・負担軽減 につながることを重 視し、絵本の読み聞か せや絵本をテーマとし た各種ブースの展開、 原画展の開催等を行 う。 	<p>【1年目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員対象研修会 絵本を通じたまちづくり をしている和歌山県有 田川町の実践を学ぶ (講師) 有田川町地域交流セン ター センター長 杉本 和子 ○オンライン演劇 新型コロナウイルス感 染症の感染拡大防止 の観点から、プレ絵 本フェスタの開催は 困難と判断、プレ絵 本フェスタの内容の一 つであった地元劇団 による演劇をオンデ マンド配信。 演目「オオサンショ ウウオのみどりの サンちゃん」 劇団くむくむ(北 広島町内の劇団4名) ○きたひろ座談会 「絵本フェスタ」の 実施に向けて地域 住民が意見やアイ デアを出し合い全 体で共有。 ※座談会出席者に 絵本フェスタ実行 委員会メンバーの 希望調査を実施。 →絵本フェスタ 実行委員会立ち 上げにつなげる。

			<p>○おはなし広場 千代田地域で活動している読書ボランティア「千代田こども文庫」によるおはなし会の開催</p> <p>【2年目】 ○実行委員会による企画会議（4～8月） ○絵本づくり講座 ○絵本フェスタ（反省会を含む） ○読書講座 ○おはなし広場（継続）</p>
--	--	--	--

3市町の取組から考察すると、地域の課題として高齢化や人口減少、地域づくりの方向性の不明確さが浮かび上がる。これらの課題に対する解決策として、ビジョン策定と共有、地域センターや自治振興区組織の見直し、地域行事の見直し、若い世代の関心向上などが提案されている。

具体的な取組として、各地域では意見交換会や講演会を通じてビジョン策定に向けた取組が行われている。また、地域センターを活用して学習機会を充実させ、高齢者の健康づくりや地域参画を支援する取組も進められている。さらに、絵本フェスタを通じて親子の交流機会を増やし、多世代の交流を促進することも計画されている。

これらの取組によって、地域の課題に対する解決策が模索され、地域の活性化や持続可能な発展が目指されている。意見交換や参加型の取組を通じて、地域住民の声やアイデアを活かし、より良い地域づくりが実現されることが期待されている。

(2) プロジェクト事業の効果

プロジェクト事業の地域にもたらした効果について、モデル市町の事業報告書及び学習支援者へのインタビューをもとに、表3のとおり7つに整理した。

表3 プロジェクト事業の効果の整理

	主な効果	事業報告書からの抜粋	学習支援者へのインタビューからの抜粋
①	継続した学びの機会の創出・提供	<ul style="list-style-type: none"> ・第2、第3の義務教育的な学習環境づくりの重要性（東広島市） ・既存の集いの場と連携し、継続した仕組みを作る。（東広島市） 	<ul style="list-style-type: none"> ●最初のこれをつくったときに、どうしたらつくれるのかいうので、学びからだからここを学びの場として、おぐに丸大学いうことで、こういうおぐに丸キャラを活用して、のぼりを作ってみたりで。（世羅町） ●学びの場があったときにはそれを掲げるようにして、学びの場ですよ！、ここから始まりますよ！という思いで。（世羅町） ●三つのそれぞれの自治協議会で特徴ある進め方しようということ、地域センターの活動の中の高齢者を対象とした百歳体操を起点にしたやり方でやった。（東広島市） ●5人でいいからっていうんで集会所で始めようよっていつて始めるようにしてもらったっていうのがあって。そのあとに学びの場を月に1回でいいから、こういう勉強会をしましょうよ（東広島市） ●正覚寺というお寺をキーにしなが、今、毎月1回はやってるよね。いろんな子ども集めたり、地域の人集めたりして、地域づくりの一環になってるっていう動きに、これは実際につながってます。（東広島市） ●黒瀬のほうにも波及していつて、豊栄にも波及してきてる（東広島市）
②	多様な主体との連携による地域内ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・地域センターとの学びの場の構築（東広島市） ・社会福祉協議会と協働事業の展開（東広島市） 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域センターのほうを核として、その場所で高齢者に対する学びの場っていうのが企画できたらいいねっていうんで、主には地域センターと職員さんと話を進めた（東広島市） ●あとはもともと地域にあった、社協が行ってたサロンのところへ行つて、そこもサロンのお楽しみ会で寄つたり、集会所で体操してたりするところへ行つて、体操のあとにそこでもう一回、なんか一緒にやりませんかって言つて、代表者の方と話をし、いくつか取り組んだところもあります（東広島市）

			<ul style="list-style-type: none"> ●ひろプロが契機になったなど思うのは、やっぱり多様な主体と連携統合してたっていうこと（東広島市） ●例えばこの中の三つ目、平岩の福祉センターで医療と福祉がつながるっていう、こういうような活用してる地域センターでもこういうことやってますっていうのが動きがある（東広島市） ●自前主義だった推進員さんもそうだし、地域センターの職員さんいろんなこと一緒になんかやったらどうっていうのを動きになっていってる（東広島市） ●図書館もだし、支所の担当、地域づくり係とか（北広島町）
③	住民からのアイデアの表出・実現		<ul style="list-style-type: none"> ●まず新しくできたのが、この五つのやってみたい、いうことで。ビジョンができたことによって、やはり活性化、やりたいことが出たので、ここは重要にしています。そうしていたら、まず、すぐアグリビジネス部が立ち上がった。（世羅町） ●今がチャンス！コロナ禍が落ち着いたら若手の方たちは、町レベルでのイベントに関わられるかもしれんけど、今は、小国のイベントでなるべく自分たちの思いを、願いが叶う感じで。だからすごい楽しそうな意見が出るんですよ。いい感じになってきたなど実感しているんですよ（世羅町） ●その講演会でキックオフとして地域の人生100年時代いうことを機運醸成して、その中の受講者の中に当然市民に対してなんですけど、福富町を中心にかつ、もっといえば福富町の住民自治協議会のかかる役員の方とかにもちょっと入ってもらって自分たちの町をとるところでたてつける形で講演会をやる（東広島市） ●たくさん付箋紙は、けっこうかなり数が出てたと思います（東広島市） ●こういうことやっていっていつとつちよったけどうちもちよつとやりたいんよねとか、そういう話は、何をやってもですけど、地域の中で起こってくる（東広島市） ●どんなまちづくりをしているのかというのを、職員側がしっかり学びたいというのがあったので、座談会をする前にそういう研修会を入れようと思って7月の下旬に入れたんです。それを受けて、9月4日の北広座談会という一般の町民を集めた企画をするというスケジュールにした（北広島町） ●ポイントが、1ページ目のところに、各グループのところに実は職員が入っていたんです。この職員というのが、図書館の本館の職員もおりますし、豊平やら芸北の地域づくりセンター、私たちのような社会教育指導員っていうものに入ってもらっていた（北広島町） ●今年はこの職員が間に入ってくれることによって、つながりがすごくスムーズに行きました（北広島町）
④	多世代の参画	<p>・町内全域から読書ボランティアさんを中心に30代から70代まで幅広い世代の方が参加してくれた。（北広島町）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさとまつり等行事が軒並み中止になったんですよ。そしたら小国青年会の人が、「子どもたちのためにハロウィーンのなんかをやっちゃりたいんじゃ！」いうことで、（世羅町） ●コロナが来て、もうだめかな？と思ったら、若い人が台頭してきて。（世羅町） ●色々な行事が中止になり、その反動があとあと出てきたのでは？若い人の火が着いたのじゃないかと。私らの知らないところで、いろいろあったのかな。そこから盆踊りの運営に若い人が出てきちゃって、なんとか開催するように。だから小国青年会の人たちはけっこうよう頑張ってるから、町のほうにも引っ張られる、やり手の人たちだって、町のことより小国のイベント盛り上げてくれりゃいいなっていつも思ってたのが、町のイベ

			<p>ントも中止になって帰ってきてくれたというイメージ。今離してはいけないと思う。今がチャンス。また活性化したらあっちに町レベルのイベント行ってんかもしれんけど、なるべく自分たちの思いを、願いが叶う感じで。だからすごく楽しそうな意見が出るんですよ。いいなと思って。（世羅町）</p> <p>●若い高校生のボランティアがかなり参加してくれて、あれは良かったなと思って（北広島町）</p> <p>●何でもいいからここでやってみたいことないかなとか、そういうような話し合いをしましょうというかたちで声をかけた（北広島町）</p>
⑤	住民の分散型リーダーによる活動		<p>●志賀先生もリーダーは分散しようということで、今までやはり事務局が主体であったり、そこがここからの変化があったところで。志賀先生の教でリーダー分散しよう。全部会長と事務局がやるのではなくて、分散いうところで手が挙がって、（世羅町）</p> <p>●みんな年を取ったし、コロナ禍だし、盆踊りを子どもたちのためにやりたいのだけど、会議で開催を中止させられるという思いでおられた。決定権を小さく分散させて自由に動けるようにしたんですよ。（世羅町）</p> <p>●好きなところに、グループをこの日に行ってくださいって言ったら、大体この人数でば一と分かれたんです。で、分かれてその中でリーダーさんを作ってもらえませんかという話をして、（北広島町）</p> <p>●企画委員会というのは、4つのグループのリーダーさんと、実行委員長さんと、私たちの3名の事務局が入ってする会議のことを企画会議（北広島町）</p>
⑥	事業改善	<p>●既存の集いの場と連携し、継続した仕組みを作る。（東広島市）【再掲】</p> <p>●コロナ禍で制限を受けている環境の中、その範囲内でも工夫すれば様々な手法で皆に観てもらえることが可能（北広島町）</p>	<p>●コロナ禍で、ビジョン作成は、ほとんど事務局で最後はやってしまったという部分もあるので。会議でビジョンを使いながら、そこはPDCAサイクルで教えていただいとおり、それはぐるぐる回そう思って。令和3年度令和4年度、つくり替え。（世羅町）</p> <p>●スクラップアンドビルドということで、行事がすごく量が多いし、行事も、やめたほうが良いアンケートにも書いてあったので、行事もやめてしまおうと思うところがあるけど今増えている。「おぐにの市」やりますとか、コロナ禍で中止したほうがいいのか？と思っていたら、やろう！とか意見があがって。意外にやりたいんだ！というところがけっこう。（世羅町）</p>
⑦	参画による住民の変容	<p>・視聴者から、「今後、北広島町や自分の住んでいる地域をより良い場所とするために自分も関わっていきたい」という感想があり、視聴者の意識の変化が伺えた。（北広島町）</p>	<p>●ふるさとまつり等行事が軒並み中止になったんですよ。そしたら小国青年会の人が、「子どもたちのためにハロウィーンのなんかをやっちゃりたいんじゃないか」ということで、（世羅町）【再掲】</p> <p>●コロナが来て、もうだめかなと思ったら、若い人が台頭してきた。（世羅町）【再掲】</p> <p>●色々な行事が中止になり、その反動があとあと出てきたのでは？若い人の火が着いたのじゃないかと。私らの知らないところで、いろいろあったのかな。そこから盆踊りの運営に若い人が出てきちゃって、なんとか開催するように。だから小国青年会の人たちはけっこうよう頑張ってるから、町のほうにも引っ張られる、やり手の人たちだって、町のことより小国のイベント盛り上げてくれりゃいいなっていつも思ってたのが、町のイベントも中止になって帰ってきてくれたというイメージ。今離してはいけないと思う。今がチャンス。また活性化したらあっちに町レベルのイベント行ってんかもしれんけど、なるべく自分たちの思いを、願いが叶う感じで。だからすごく楽しそうな意見が出るんですよ。いいなと思って。（世羅町）</p> <p>【再掲】</p>

		●今までずっと集会所、何もしていなかった地域が毎週集まれるようになった。その役を担わなきゃいけない。その役を担わなきゃいけない人が、それですごく変容したら、その家族の人たちが自治会長さんとここにすごい礼を言いに行っちゃったんです（東広島市）
--	--	--

① 継続した学びの機会の創出・提供

設定した学習課題を踏まえ、柔軟な形式で学ぶ機会を継続的に生み出されている。また、世羅町の「おぐに丸大学」のように、学びの重要性をシンボリックにアピールする等、学びの場の持ち方も創意工夫もされることで、学びにゆるやかなつながりをもたらしている。

② 多様な主体との連携による地域内ネットワークの構築

多様な主体と連携することにより、学びや活動に地域住民を巻き込む仕掛けを設け、ゆるやかなネットワークを構築している。また、東広島市の社会福祉協議会が行っていたサロン等の既存の取組についても、様々な主体が連携・協働できる仕掛けを設け、地域におけるネットワークを再構築している。

③ 住民からのアイデアの表出・実現

住民との対話や協議の学びの場を設け、学習支援者が住民からのアイデアを巧みに引き出し、住民主体の活動につなげている。住民からのアイデアから取組の出発をしていることが、住民の主体的な活動に繋がっているポイントであると考えられる。

④ 多世代の参画

学習支援者は学びの場やそこから派生した活動において、意図的に子供・若者の世代等多世代にわたり声掛けをし、参画を促している。そのような活動を通して、世代を越えたつながりが生まれ、様々な世代が事業に参画できるようにしている。

⑤ 住民の分散型リーダーによる活動

住民のアイデアを基にした活動であることから、その活動の発案者が自然な形でリーダーとなっている。学習支援者のコーディネートのもと、リーダーが分散した形で事業が円滑にかつ主体的に進められていると考える。今後、それぞれのリーダーがゆるやかに繋がっていくことで、地域づくりを進める持続可能な体制となっていくであろうと考える。

⑥ 事業改善

事業の目的を整理したプロジェクトテーマを設けることにより、新規の取組の立ち上げとともに、既存の取組の見直し・再構築が進んでいる。また、それに併せて関連事業も含め事業の改善が行われている。

⑦ 参画による住民の変容

事業に参画することにより、住民の当事者意識が醸成され、積極的な行動変容が見られている。地域課題の解決に向け次々とアイデアが生み出されそれを実行に移す等、住民の意識変容及び行動変容が地域貢献へとつながっていることがうかがえる。

表3に示したそれぞれの効果について考察する。本事業の趣旨から、当初①、②の効果は期待していたが、モデル市町学習支援者へのインタビュー調査から、③以降の効果についても新たに見えてきた。なお、ここで見えてきた効果については相加相乗的に高め合っていると考えている。

(3) 県職員の支援

モデル市町には、県立生涯学習センターから担当の社会教育主事を配置し、各市町の取組を支援してきた。モデル市町への主な支援内容については、次のとおり主に5つに整理することができる。

表4 県からの主な支援内容

	内容	詳細
①	実態把握アンケートの作成	地域の課題やニーズを分析し、ビジョンづくりにつなげるために、住民対象のアンケートの作成について助言した（世羅町）。
②	講師とのコーディネート	地域のビジョンづくりに向けて地域住民のワークショップ（学びの場）を進める講師を紹介した（世羅町、東広島市）。
③	地域住民とのワークショップのファシリテート	プロジェクトのメンバーを募っていくための座談会（学びの場）を開催し、そのワークショップを進行した（北広島町）。

④	研修におけるプロジェクトの企画シート作成	本事業の研修において、演習の時間を設け、企画シートの作成を支援した（世羅町、東広島市、北広島町）。
⑤	成果検証のためのアンケートの試行・フィードバック	地域のビジョンづくりに係るワークショップ後の住民の意識変容についてアンケートを取り、その結果を市町へフィードバックした（廿日市市）。

これらの支援は、モデル市町の学習支援者と密に連携を図り、進めてきている。

また、研修において企画シートの作成につなげるための地域課題分析シートの作成等の支援がプロジェクト事業を確実な実践につなげていくと改めて考えている。

なお、県立生涯学習センターの伴走的支援の在り方については、市町の課題やニーズに寄り添い、これからも柔軟に対応していけるようにするとともに、今後もそのノウハウを蓄積していく。

5 今後に向けて

令和4年度の研究では、本事業の効果及び県からの有効な支援について一定の整理をした。この整理を踏まえ、今後は、県として次のように支援の取組等を改善し、モデル市町において、より事業の効果が高まるよう、取り組んでいきたい。

① モデル市町のプロジェクト開始前への伴走的支援

令和3年度の研究でも述べているが、モデル市町においてプロジェクトが円滑に進んでいくためには、プロジェクトを企画する準備段階が肝要である。そこで、地域分析シートやプロジェクト企画シートの作成を市町の状況に応じて、スモールステップで着実に支援することで、市町がプロジェクトを主導していけると考えている。なお、このことについては、令和4年度の本事業の研修から、地域課題分析シート及び企画シートの作成に係る演習は市町毎に実施する等試行してきている。

② モデル事例の県内への波及

この4年間、県内5市町において、本事業を受託し取り組んでもらっている。今後、モデル市町における取組が、各市町の地域の実情に応じて参考となるよう、当センターの各研修やホームページ等において積極的に周知していく。また、市町の学習支援者同士をつなぐことで、プロジェクト推進のノウハウを共有してもらえよう支援し、本事業を県内に広く波及していく。

③ 学習者へのアンケートによる事業効果の把握・検証

令和4年度の研究では、この事業の成果をモデル市町からの事業報告書や学習支援者へのインタビュー調査から整理した。学習支援者へのインタビュー調査では、学習者の地域への参画等の変容も一部把握できたが、住民の地域づくりへの貢献の度合いをより客観的に把握するために、学習者へアンケート調査を実施し、効果をより明らかにしていきたい。

④ 研修の改善

本事業の成果と課題等を踏まえ、今後の研修の内容を改善し、事業の更なる波及に努めていく。なお、モデル市町については、市町職員研修の実施支援をすることにより、市町内の多くの地域でプロジェクトが実施できるようにする。

⑤ 公民館等施設から応募できる仕組みづくり

プロジェクト事業を実施したい公民館等施設が、本事業に単独でも希望できるよう事業の枠組みの再構築を検討する。

(謝辞)

- ・本稿は「ひろプロ」モデル市町の皆さんの温かいご協力の下で執筆できました。心よりお礼申し上げます。
- ・本研究はJSPS科研費 JP19K02489、JP20K20835、JP22K02272の助成を受けたものです。

參考資料

令和4年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修
【広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業推進研修】実施要項

1 趣旨

地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会・支援を提供し、学びを通じた地域づくりを促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう、地域住民の主体的な学びを通じた地域課題解決・まちづくりの推進のための施策・事業を実践し、コーディネートできる人材（公民館等職員）の育成を図る。

【育成したい人材像】

- 地域の課題や将来像を共有し、地域住民が当事者意識をもって地域課題解決に向けて協働して取り組むことができるよう、学びと活動が好循環するプロジェクトを企画・立案し、地域住民が共感しやすい方法でプレゼンテーションすることができる。
- 地域住民の学びから始まる地域づくりへの参画を促し、意欲や自発性を向上させながら、意識や行動の変化を促すためのファシリテーションを行うことができる。
- 多様な主体（住民同士や関係機関・団体、NPO、企業、大学・学校等）が相互理解を深めながら学び合い、連携・協働しながら活動できる場をコーディネートすることができる。

2 主催

広島県教育委員会（広島県立生涯学習センター）

3 ねらい

公民館等職員の学びから始まる地域づくりのためのコーディネート力の向上を図る。

- 学びから始まる地域づくりに関わる新しい知識や考え方を得ることができる。
- 地域の未来を考えながら、地域の現状や課題、資源を分析し、プロジェクト案を作成することができる。
- プロジェクト案を交流し、評価のポイントに基づいた点検や助言ができる。

4 対象、定員及び受講条件

(1) 対象

ア 市町の生涯学習振興・社会教育行政関係職員等

例：公民館等（コミュニティセンター等の類似施設を含む）で施策・事業の企画運営を担当している方、社会教育主事、同有資格者等、自治体や組織の中核として、生涯学習振興・社会教育行政関係の施策・事業を進めている方

イ 上記以外で、地域づくりや啓発事業・講座等の企画運営を担当している方

例：地域リーダーの育成やまちづくりワークショップを担当する地域政策課・関係施設職員、防災教育事業を担当する危機管理課職員、子育て講座や高齢者対象の講座を担当する福祉課・関係施設職員、地域おこし協力隊等

※県内各市町の皆様に支援事業の趣旨やプロジェクトの企画・立案に向けた手法について、モデル市町における実践事例等を踏まえて具体的に学んでいただけます。

(2) 定員

50名程度

5 実施方法

「Zoom」を活用したオンライン型

※オンライン形式での参加が難しい場合は、お問い合わせください。

6 日程・内容（準備物）

7月27日（水）13:30～15:45【受付13:00～】

時間	内容	講師等
13:30～13:40	オリエンテーション	
13:40～14:40	[講義] 学びから始まる地域づくり	広島修道大学人文学部 教授 山川 肖美
14:40～14:50	休憩	
14:50～15:40	[説明] 支援事業の概要について プロジェクト課題の設定方法について	広島県立生涯学習センター 社会教育主事
15:40～15:45	事務連絡	

※2回目以降については、各市町の御希望に沿いながら、進めていきます。

7 受講申込

(1) 申込方法（広島県電子申請システム）

別紙「**研修受講の留意事項**」を確認し、所属長の許可を得た上で、パソコン、タブレットまたはスマートフォン等を使用して、「**広島県電子申請システム**」から申し込んでください。

【広島県電子申請システム（広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」コーディネーター研修受講申込用アドレス）】

https://s-kantan.jp/pref-hiroshima-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=9972



(2) 受講決定方法等

受講申込完了後に、電子申請システムでの受講申込時に記入したメールアドレス宛に届く「申込完了通知メール」をもって、受講決定の通知とします。

(3) 申込期限

令和4年7月6日（水）午後5時まで

8 問い合わせ先

広島県立生涯学習センター

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47

電話 082-248-8848 ファクシミリ 082-248-8840

電子メール sgshinkou@pref.hiroshima.lg.jp



0-370



地域の現状を表すデータ
○○○○

地域の資源
○○○○

地域課題の分析
○○○○

プロジェクト課題
○○○○

取組のポイント
◎◎◎

成果指標
○○○

取組の概要
○ . . .

一年目

二年目

三年目

達成指標(1年目)
○○○

達成指標(2年目)
○○○

達成指標(3年目)
○○○

前半(4~9月) 後半(10月~3月)

1年目

2年目

3年目

実施体制(連携・協力)
○○○

運営財源・活動資金
○○○

取組の
発展・継続・関連
○○○

令和5年度 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業 事業計画書

1 事業名（市町名）

「 _____ (_____) 」

2 事業の実施期間

令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日 から 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日まで〔3ヶ年分〕

3 テーマ

※単独テーマに該当する場合：いずれか一つに○を付ける。
 複数テーマに該当する場合：主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テ　　マ	該当の有無
地域の未来像を共有するための学びの場づくり	
地域の人材による家庭教育支援	
地域の人材による地域学校協働活動の推進	
地域の人材による社会的包摂の実現	
地域防災・減災の仕組みづくり	
その他、地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成	

4 事業実施組織（検討チーム）の構成

① 組織の全体構成員

氏　名	所　属　・　役　職　等	備　考　欄

② 事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる担当職員）

氏　名	所　属　・　役　職　等	社会教育主事 資格の有無

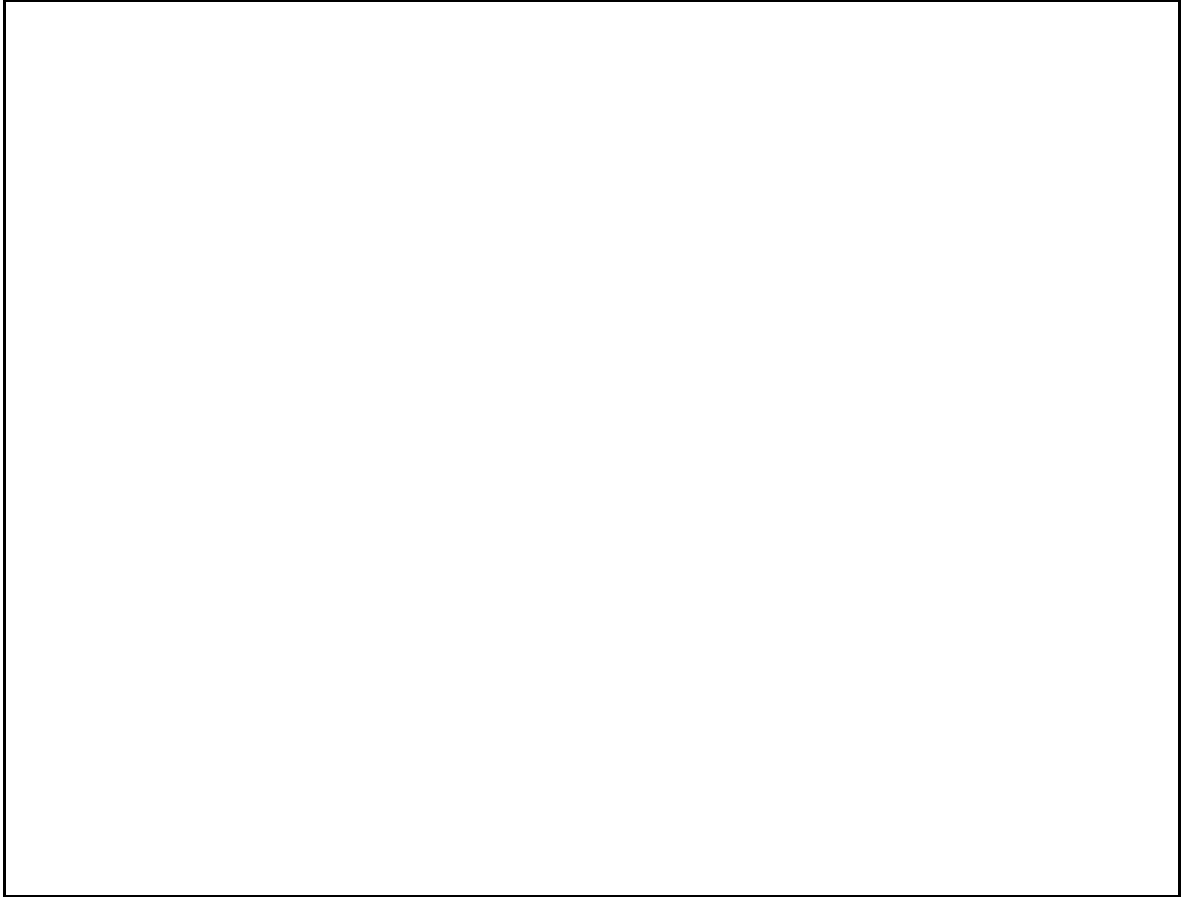
5 趣旨・目的

(地域の現状, 解決すべき地域の課題, それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

6 具体的実施内容及び実施方法等

7 運営財源, 活動資金

8 見込まれる成果・効果



9 実施体制（関係機関・組織・団体等の関係を図示すること。）



10 実施スケジュール

年度		月											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年目													
二年目													
三年目													

11 評価計画

(評価体制, 評価手法等を含め, 「成果指標」を中心に, できるだけ具体的に記載すること。)

12 支援事業該当年度以降の内容及び実施方法等

--

令和4年度広島県立生涯学習センター調査研究成果報告書

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」 支援事業の今後の展開に向けて

—市町職員研修とモデル市町支援の実施を通して—

令和5年3月

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47

TEL 082-248-8848

FAX 082-248-8840

メール sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp

H P <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>
